

令和5年度の長井小中一貫教育の方向性

令和5年5月16日

I.長井小中一貫教育の基本方針

(1) 長井小中一貫教育の研究を継続する。

- (理由) ① 長井地域の児童・生徒を「**9年間で育てる**」意識を持つことで、早い段階で学習面や生活面の課題等に気づき対応することができる。
- ② 長井小中の先生方が連携することで、「**小中の接続**」を円滑に行うことができる。→中1ギャップの解消
(学力向上や不登校の未然防止、約束事の継続性などが期待できる。)

(2) 授業研究(研究授業)を継続する。

- (理由) ① 「**授業力を向上させる**」ことができる。(教材研究の深まり)
- ② 校種(小学校・中学校)を越えて、「**授業実践から学ぶ**」ことができる。
- ③ 研究授業を通して、「**児童・生徒を見る目を養う**」ことができる。
- ④ 学校生活の中心である「**授業で児童・生徒の力を高めていく**」ことは、より良い学校づくりの一つであるため。

II.長井小中一貫教育の概要(研究紀要より)

(1) 長井小・長井中の概要

長井小学校と長井中学校は、畑と海の豊かな自然環境に囲まれた中で、「長井」を愛する地域の方々に温かく見守られている。そのような恵まれた環境で育つ生徒は、元気で明るく、思いやりがある子どもが多い。また、少なくなっているとはいえ、「農業・漁業」などの第一次産業に家族ぐるみで従事している家庭が市内の他の地域に比べると多く残っている。その一方で、長井小・中学校は「一小一中」のため、人間関係が固定化し、他人と競争する経験が少なく、学校生活の様々な場面で「ねばり強く活動すること」や「自分自身を高めること」に対して意欲が低下している面もある。

長井小学校・長井中学校は、校舎や校庭が隣接している立地条件から「小中一貫教育」が取り組みやすい環境にある。平成23年度から平成25年間の3年間、横須賀市教育委員会の委託で「小中の学びをつなぐ」様々な取り組みを行い、「長井の子どもを9年間で育てる」という意識が、長井小・中学校で定着した。平成26年度からは、横須賀市の小中一貫の推進校として、共通研究テーマ「**よく聴いて 考えて 表現する 長井っ子の育成**」を設定し、小中一貫教育を推進している。さらに、平成27年度からは、学校生活のさまざまな場面において、知的活動(特に思考や論理)、感性や情緒、コミュニケーション(対話や議論)の基盤である「言語」に課題が見られるため、「言語力」を向上させる手立てを研究している。

(2) 長井小中一貫教育のあゆみ

長井小中12年間のあゆみ

1年目 H23

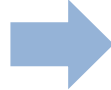


どう進めたら良いのかわからない

小中の文化の違いにとまどい

行き先が見えない中・・・

- ・ 担当者会の開催
- ・ 研究組織の確立
- ・ 小中の生活の決まりを統一



互いが分かり合うために大切なのは
人とのつながり

次年度に向けて・・・

年間行事を見合い、研修会や担当者会の日程を調整

2年目 H24

人とのつながりをもつために・・・

☆小中が本音で話し合える場の設定

- ・ 推進委員会を立ち上げ月一回の交流
- ・ 小中合同研修会の設定
- ・ 小中教員の親睦会

授業で！

- ・ 小中で単元・題材をそろえ、授業研究（算数、数学科・体育科）
- ・ 全教科指導案作成

学びのつながりを確認

色々な交流をもつ中で
小中教員が笑顔で会話をする
関係ができる



行事で！

- ・ 中学の文化発表会等での交流による児童、生徒のつながり

次年度に向けて・・・

長井小中年間行事予定作成

2年間で小中のつながりが深くなり

順調にスタート！

教科部

- ・ 前年に指導案作成した7教科の研究授業を行う。小2日、中2日の4日間。2年間で9教科の研究授業を行う。

学習指導部

- ・ 小中そろえて家庭学習への取り組みを行う。(保護者への働きかけ等)
- ・ 夏休み明け課題テストを実施

生活指導部

- ・ 1年目に作成した「生活のきまり」「学習のきまり」を再検討する。
- ・ 小中がHRや清掃、授業態度を見合う期間を設定した。

特活指導部

- ・ 1年目から計画していた小中合同レクが実現。中学生のリーダー性を高めた。子ども同士のつながりもできた。

小中一貫の中心は
授業！

全員が一丸と
なるような組織

無理のない計画で
継続を！

4年目 H26

子どもの実態より研究テーマを決定
よく聴いて 考えて 表現する 長井っ子の育成

「聴く力」を中心とする授業研究

- ・ 聴く力を育てる授業に向けての個人テーマを作成し、共有する。
- ・ 9教科に分かれ、それぞれの教科での「聴く」を研究。

校種・教科を超えて、授業について考えるきっかけとなる。

「聴く」に対しての捉え、視点にばらつきが出てしまい、より明確に、全員が理解して取り組めるような体制作りをしていくことが課題となる。

共通理解を大切にし、
より充実した研究へ

これまで積み上げてきたものを無理なく継続

その他活動

- ・ 生徒、児童指導部とは別に、支援教育部を立ち上げる
- ・ 小学生が、中学の文化発表会に合唱で参加(過去二年は鑑賞のみ)

小中がより交流できる
グループ編成を

8年目 H30



小中それぞれが 必要な研究を見つめ直す

小中合同の研修日を減らし、小中それぞれが、教員に必要な能力や児童生徒に習得させたい力を見つめ直し、それに合わせた研修時間を設けた。合同の授業研究、指導案検討などは、今までどおり継続。

<小学校>

国語や算数など年毎に教科を絞り、説明文を通して表現する力を育成する研修などを行った。

<中学校>

授業研究とテーマ研究の2つの柱で研究を進めている。授業研究では、授業での見取りを研究している。

昨年度までの研究を引き続き行う

小中一貫で行う行事や日常的な活動は、小中の担当者同士で進められる環境ができあがったので、研究として取り組む必要がなくなった。今まであった部を授業研究部に一本化した。

7年目 H29

6年目 H28

昨年度に続き、言語力を高めるための研究を実施

インプット

アウトプット

整理して
考える

H28は昨年度の研究を整理して考える場面にシンキングツールも活用しながら可視化。

その他の活動

- ・昨年度までの行事や活動を継続
- ・グループで集まる時間を
昨年度よりも増やす。
- ・辞書の活用



5年目 H27

小中そろえた目指す子ども像を設定

小中9年間を通して、どんな子どもに育ってほしいかを話し合った。

小中教員を混合したグループ研究を開始

- ・小も中も教科の枠を超え、グループでテーマに沿って話し合いを進める。
- ・中学教員も自分の専門外の教科に関わり、その中で自分の教科に生かせる。
- ・グループにすることで、研究の内容や学校のことについて、より深く話し合える。

テーマをより焦点化して

- ・テーマは昨年に引き続き「よく聴いて 考えて 表現する 長井っ子の育成」
- ・昨年のテーマ「聴く」にたどりつくためには、子どもたちの語彙力が必要と分析
- ・言語力を高めるための研究授業を実施



聴く力

言語力

言葉で
表す力

読む力

文章で
表す力

その他の活動

- ・小中全員の合唱が実現
- ・学習状況調査の結果や
分析をもちより話し合う。

9年目 R1

昨年度から継続の形で研究をすすめる

<小学校>

家庭学習活性化のため、4年生以上の児童に自主学習ノートの配布と自主学習の具体的な方法を指導した。

<中学校>

校内研修では昨年度行った研修を踏襲しながら、教員の資質向上（特に授業力向上）に焦点を当てて、研修を行ってきた。

10年目 R2

家庭学習の習慣化に関する情報交換

新型コロナウイルス感染防止のため、例年のように授業研究をすすめることができない状況の中、できることをすすめました。



11年目 R3

オンラインでの研究会開催、研究授業の参加を実施

「小中の接続」「授業研究」の2つを継続して取り組みました。しかし、全体で集まることが難しく、小中お互いの顔がわからない、授業研究以外の部分の情報共有する機会がないなど、課題も挙げられました。



12年目 R4

今後の取り組み方について検討

小中一貫教育の大目標を達成するため、3グループに分かれてそれぞれテーマを設定し、授業研究を行いました。また、小学6年生が中学校訪問をするなど、以前の取り組みを復活させる動きも出てきました。また、各指導での動きを活性化させるための手立てについて担当者内で話し合いを行いました。

(3) 学校教育目標・めざす生徒像

〈長井小学校 教育目標〉

「明るく元気に学ぶ 心豊かな子」の育成

めざす子ども像

〈低学年〉

1. 話をよく聴き、よく考える子
2. 友達を大切にする子
3. 自分の役割を最後までできる子
4. あきらめずにがんばる子

〈中学年〉

1. 進んで自分の考えを話し、仲間と学び合いながら意欲的に学習に取り組む子
2. 相手の気持ちを考えて行動し、互いの良さを認め合える子
3. 自分のできることを見つけ、進んで行動できる子
4. 苦手なことも根気強く取り組み、自分のめあて達成に向けて努力する子

〈高学年〉

1. 進んで学び、考え、見通しを持ちながら課題解決しようとする子
2. 互いに認め合い、支え合いながら、友達を思いやり、感謝の気持ちを大切にする子
3. 自分のため学校のために自分の力を精一杯発揮して挑戦する子
4. 仲間と共に、自分のめあて達成に向けて最後までやり遂げる子

〈長井中学校 教育目標〉

学ぶ つながる 切り拓く

めざす生徒像

1. 自ら学び、自ら課題を解決しようとする生徒
2. 互いの良さを認め合い、仲間を大切にする生徒
3. 心と体の健康を大切にし、たくましく成長しようとする生徒
4. 夢を持ち、自分を信じて努力する生徒

長井小中の「めざす子ども像」

1. 確かな学力を進んで身につける子
2. 豊かな心で相手を思いやり、人とのつながりを大切にする子
3. 郷土を愛し、社会の中でたくましく生きる子
4. 夢の実現に向けて一生懸命努力する子

長井小中の児童・生徒は、興味のあることに対しては、意欲を示し、自ら課題解決に向けて努力する。けれども、自分が苦手だと思ふこと、自分には関係ないと思ふことに対しては、消極的な面が多くあり、自ら進んで取り組もうとする意欲が低い傾向がある。これは、基礎・基本の学力が十分に定着していないため、自分に自信が持てないからである。そこで、長井小中が、基礎・基本の定着に一丸となって取り組み、「学力の向上」を図ることで、自己肯定感が高まり、自分に自信を持ち、自分らしさを発揮し、自分の思いが豊かに表現できるようになるのではないかと考えた。

「自分にはできない」「自分には関係ない」と初めからあきらめ、扉を開こうとしない児童・生徒は、「仲間との関わり」の中で、自分が認められるようになることで、自信をもち、意欲を持って様々なことにチャレンジし、向上心を高めると考えた。

長井は、豊かな自然や文化・歴史があり、あたたかい地域愛で支えられている町である。長井の宝である「人・もの・こと」を大切にしながら長井小中で一貫した教育活動を推進していくことで、長井の子どもたちは自分たちの町「長井を愛し」、自分たちの力で長井を守ろうとするであろう。そして、9年間の学びの中で、自分の目標に向かって一生懸命追究し続けることで培った力は、将来の「夢の実現に向けて」の大きな力となるであろう。その「たくましい思い」と「生きる力」は、いつの日か自ずと社会へと向けられ、誰かのため、世界のために発揮されることを信じたい。

長井小中一貫教育 研究の全体構想図

学校教育目標

- ＜長井小学校＞ 明るく元気に学ぶ 心豊かな子の育成
- ＜長井中学校＞ 学ぶ つながる 切り拓く

長井小中の「めざす子ども像」

1. 確かな学力を進んで身につける子
2. 豊かな心で相手を思いやり、人とのつながりを大切にする子
3. 郷土を愛し、社会の中でたくましく生きる子
4. 夢の実現に向けて一生懸命努力する子

長井小中の共通研究テーマ

よく聴いて 考えて 表現する 長井っ子の育成

児童・生徒につけたい力

言語力

聴く

読む

表現する

授業づくりのポイント

既習事項の確認

教材提示方法の工夫

課題設定の工夫

板書の工夫

個に応じた指導

聴き方・話し方の育

ノート指導の充実

研究の検証

- ① 全国学力・学習状況調査、横須賀市学習状況調査の分析
- ② 普段の授業での評価
 - ・ 質問紙によるアンケート
 - ・ 学習記録の活用（振り返り）
- ③ 授業研究での評価

長井小・長井中の「言語活動の充実」の取り組み

整理して考えさせる授業づくり

語彙の学習

望ましい人間関係づくり

学校生活の基盤

- 学年・学級づくり（学び合い、認め合い、高め合い）
- 学習習慣の確立（学習規律、授業に対する姿勢、家庭学習の習慣化）
- 基本的生活習慣の確立（生活のしおり・学活のしおり、家庭との連携）

Ⅲ.研究の組織

(1) 組織図

<令和5年度活動組織>

役員会・・・各校の長井小中一貫教育の研究推進
連絡会・・・研究推進・授業研究グループリーダー（小中）・提案のある担当者
研修会・・・全職員

I	授業研究部	「授業研究の推進」と「研究授業の段取り」を行う。 ○授業研究を「グループ制（A～C）」で実施する。 →年間を通して、同じメンバーと話し合いをすることで、 研究を深めることができる。 →他教科の指導法を学ぶことができる。
	学習指導部	「家庭学習の習慣化、学力向上」「総合的な学習の時間」について研究する。 ○学習状況調査の分析
II	生活指導部	「児童・生徒指導」「支援教育」について研究する。 ○児童・生徒指導の連絡・6年生への講話 ○生活のきまり・学活のしおりの検討 ○SHR・清掃・給食指導の連携 ○なかよし・3組の連携
	学校行事部	「長井小中が協力して行う行事」を企画・運営する。 ○6年生への取り組み（合唱・中学校訪問） ○小中合同レクリエーション ○小中合同避難訓練

(2) 役割分担について

① 授業研究部は全員が所属し、「教科の研究」を行う。

② IIの組織については、小中それぞれの「校務分掌」を割り当てる。

→小中の各グループをつなげ、グループリーダー同士が案を練り、そのグループが協力して活動を行っていく。

→活動の担当者は、「実施案」を作成し、長井小中それぞれの「グループ会議」「企画調整会議」「職員会議」に提出する。
(活動が実施される「前月の職員会議」に実施案が提出できるように、計画的に進める)

→長井小中の研究組織を一貫することで、「何をすればよいのか？」という不安と負担感をなくす。

→部の取り組みを通して、多くの先生方と情報交換ができる。
(小中一貫教育を継続させる上で重要な視点)

(3) 長井小中一貫教育の研修計画

5	11	木	小中一貫連絡会①	12	1	金	研修会③「チャレンジB研究授業」
5	16	火	小中一貫研修会①	1	11	木	1/25(木)の指導案検討・連絡会②
6	13	火	6/27(火)の指導案検討	1	25	木	研修会④「研究授業」
6	27	火	研修会②「研究授業」	2	8	木	研修会⑤「まとめ」
11	14	火	12/1(金)の指導案検討	2	26	月	連絡会③「次年度に向けて」

回	日	令和5年度（例年）	コロナ禍ver.
1	5月	研修会①「長井小中一貫教育の方向性」 *授業研究のグループ発表、打合せ、 研究の見通し *各部と担当の打合せ、年間計画の作成 *個人 グループの取り組みの設定	研修会① 小中それぞれで実施 「長井小中一貫教育の方向性」 *授業研究のグループ発表、打合せ、研 究の見通し
2	6月	研修会②「研究授業」 *中学校の授業を行う *可能な限り1年生の授業を実施する	7月に中学校1年生授業見学会・情報交換 会を予定
3	12月	研修会③「研究授業」 *小・中でグループ授業を実施する (チャレンジB発表)	研修会② 1月にまとめて行う 「研究授業」
4	1月	研修会④「研究授業」 *小学校の授業を行う *可能な限り6年生の授業を実施する	*小・中でグループ授業を実施する (チャレンジB発表)
5	2月	研修会⑤「次年度に向けてのふりかえり」	

【研修計画のポイント】

- ① 長井小中の共通研究テーマに基づいた「グループの取り組み」「個人の取り組み」を設定し、1年間研究を推進していく。
→全職員が様々な場面で、共通研究テーマを意識して指導に取り組む。
- ② 6月は中学に入学した1年生を見るために可能な限り1年生の授業を実施する。
年度末の研究授業は、小学校6年生を中学校につなぐために、可能な限り小学校6年生の授業を実施する。
- ③ グループでの授業研究を推進するために、「指導案検討の時間」を確保する。
→研究日として、長井小中で放課後に会議等を入れない日を設定する。
- ④ 1年間の成果を発表する「研究発表会」を実施する。
- ⑤ 長井小中一貫教育の年間反省を実施し、年度内に「次年度の研究の方向性」を定める。